

教育費負担の公私間格差をなくし、子どもたちにゆきとどいた教育をもとめる

佐賀県私学助成をすすめる会だより

NO.2

県へ私学助成拡充を訴えるが

県から納得のいく回答なし！！

佐賀県私学助成をすすめる会
（事務局：佐賀県私立学校教職員組合連合内）
2023年9月1日（金）
文責 事務局 米倉嘉康

佐賀県私学助成をすすめる会（代表 古賀千花子）は、8月9日佐賀県庁旧自治会館2階会議室において佐賀県法務私学課私学振興課課長へ『私立高校生の学費負担軽減と私学助成の拡充を求める要請書』を提出しました。当日は、すすめる会から会長の古賀、副会長の吉田、事務局米倉、他市内の私立学校より教師4名と佐賀学園振興会会長、全国私教連書記長葛巻の計9名が参加しました。

まず参加者の挨拶と名刺交換の後、すすめる会会長古賀より課長へ要請書を手渡しました。その後古賀会長より要請趣旨を話され、私学振興課よりそれについての回答及び参加者との間での質疑応答がなされました。

以下は、佐賀新聞の記事です。

入学金補助増額などを佐賀県に要請 佐賀県私学助成をすすめる会



私学助成の増額などを求める要請書を県担当者（右）に提出する古賀会長＝佐賀市の旧自治会館

「佐賀県私学助成をすすめる会」（古賀千花子会長）などは9日、佐賀市の旧自治会館を訪れ、県に私立高校生の学費負担軽減と私学助成拡充を要請した。

県私立学校教職員組合と連名で要請した。提出した要請書では、（1）教育予算の増額と経常費助成（2）入学金補助制度の増額と所得制限の緩和（3）県単独の私立高への支援制度復活など3項目を求めた。

古賀会長は「『私立は高いから行けない』と言われる。新型コロナ流行で経済状況が悪化した家庭もある中、佐賀で学べる環境をつくってほしい」と求めた。要請書を受け取った県私立中高・専修学校支援室の山口昭博室長は「さまざまな支援メニューの組み合わせで、保護者の負担軽減に努めていきたい」と応じた。（山口貴由） 2023/08/09 佐賀新聞記事より

【佐賀県私学助成をすすめる会 会員様へお知らせ】

第41回 全国父母懇・私学助成をすすめる会交流集会 広島大会 参加者募集

日時/ 2023年9月30日(土) 13:00 ~ 10月1日(日) 12:30

会場/ 安芸グランドホテル <広島県廿日市市宮島口西1-1-17>

内容/ 開会行事・講演・分科会(学習会・懇談)

費用/ 一部個人負担有 募集人数/ 若干名

詳しいことについては、事務局 米倉（佐賀学園高校 Tel0952-30-4281）までお問い合わせください。

申し込み締め切り 9月8日(金) 17時まで

対県要請を終えて

佐賀県私学助成をすすめる会 会長 古賀千花子

8月9日、佐賀県庁に私学助成についての要請に佐賀学園高校振興会 村瀬会長、全国私教連 葛巻様、佐賀女子高校、佐賀清和高校、龍谷高校、佐賀学園高校の先生方とともに、私立学校で学ぶ子どもたちのよりよい学びのために

・入学金補助の増額 ・就学支援金の所得制限の緩和 ・佐賀県による就学支援と年収910万円未満世帯の授業料無償 ・教育予算の増額による公私間格差解消 などの要請をして参りました。

県から、よりよい学びと特色ある学校づくりのために様々な形で補助をしているということについてご説明をいただきました。世界情勢を踏まえ昨年11月より行われている燃料費補助や、学校現場のニーズ多様化に伴うカウンセラーなどの人員配置や生徒確保のための事業などにも県独自の補助をしているとの説明を受けました。補助金の使途も自由度が高く、学校の創意工夫がしやすいものになっている、ともお話しいただきました。ただ、生徒一人あたりの教育予算が公立は約100万円程度であるのに対し、私立は80万円、公立も私立も同じように大切な教育とお話しいただきましたが、大きな差が生まれていることについての積極的な支援への具体的なお話を聞くことはできませんでした。佐賀県は他県に比べて支援の水準は高い方ではあるのですが、未だ校納金未納による退学者が0名ではないこと、多子世帯にとっては子どもにかかるお金がかかり大きいため、頑張って働くことで世帯収入が増加し、支援を受けられないケースもあることも事実です。

『自分が行きたい高校で望む学びを』『中学時代に打ち込んできた部活動を続けたい』高校進学にあたり、何かをしたいからこの高校に行きたい！という学校選択ができることはとても嬉しいことであるし、子どもの思いを応援したいのが保護者の素直な気持ちですが、同時に「私立を選んだらどうしよう」という心配が生まれていることも事実です。

コロナ禍を経て、世界情勢の変化に伴って物価上昇が続いていることなどにより、経済状況が悪化している家庭が増えていることで高校生のアルバイト申請や、経済的な理由で進学を諦めざるを得ない子どもたちが増えつつあることを改めて確認し、子どもたちが未来への希望が持てるために何ができるのだろう、という思いが強くなりました。

子どもたちが望む学びをすすめ続けていくための『教育の無償化』、学校の充実や先生方の労働環境の改善のための私学助成。子どもにとっても先生方にとっても教育の場が幸せなものであってほしい、と保護者として強く思っています。学びの主役である子どもたち、その子どもたちを導いてくださる先生方、それぞれが安心して過ごすために保護者ができることは困っていることや助けてほしいことをことばにしていくこと。でも、何をどうすればいいのかかわからない…私自身もそう思っていました。そんなときに私学助成、ゆきとどいた教育をすすめていくための署名活動を知り、この署名が保護者からの意思表示となり就学支援金の充実につながっていることを実感しています。署名用紙は保護者の皆様の我が子への思いがこもったものだありがたいとお預かりしています。お預かりした署名用紙は国会と県議会、それぞれに直接お伺いし、手渡しています。

皆様の思いをしっかりと県や国にお伝えして、子どもたちが学びや部活動を諦めることがないように。先生方がよりよい環境で子どもたちを導き、未来への道筋についていけることができるように。保護者が安心して進学させることができるように。すべての子どもがよりよい教育を格差なく受けられるように。経済格差が教育格差にならないように。

署名用紙が届きましたらご署名いただき、いまの子どもたちが学びを全うできるように、そして未来の子どもたちが行きたい学校で望む学びをすすめていけるように、思いを伝えていただければ…と思います。いつもご理解をいただきありがとうございます。今後ともご協力をお願いいたします。 2023.8.25

『恩送り』

愛知県私学助成をすすめる運動は、『恩送り』が合言葉です。先輩方の署名運動で今の学生は私学助成額が増えている恩を受けている。だけど、先輩方に恩を返せないで、次の世代にその恩を返す形で運動が行われてます。佐賀県の私学助成も同じです。先輩方のおかげです。次の世代のために頑張らしましょう。